

# 濟心光記

7月に国の機関である北方領土問題対策協会(北対協)の企画による訪問団に加わり、国後島と択捉島を訪ねる機会を得ました。四夜五日という短い行程ながら、全て船中泊。はしけ船で行ったり来たりしながら、現地の状況を確認し、一般家庭での昼食会などいろいろな行事を通じて交流を深めてまいりました。領土問題は国の根幹をなす問題のひとつですが、様々なアプローチがあっていいと思います。排他的な考え方だけでなく、「人の絆を強めることによって国と国の関係を改善できるのではないか」という思いを強くしました。

6月の一般質問ではあえて戦争と平和の問題を取り上げましたが、あらゆることに多様な視点を持って臨むことが大切な時代ではないかと思えます。北方領土の現状について、詳しい報告や意見交換を希望する方は「出張出前講話」いたしますのでご一報下さい。もちろん少人数の集まりでも結構です。



択捉島の子供たち 択捉島ろうそく岩にて

## 光永くにやす後援会(栄光会) 入会募集中

- どなたでも入会することができます。
- お届け頂いた個人情報は会の運営以外には使用致しません。
- ご連絡いただければご説明に伺います。

光永くにやす後援会(栄光会)へ入会ご希望の方は「後援会入会申込書」にご記入頂き、FAX(郵送でも結構です)にて事務所までご送付ください。その上で、年会費をお振り込みいただけましたら幸いです。

◆光永くにやす後援会(栄光会) 年会費 1,000円  
【振込先】 ゆうちょ銀行 口座番号: 01760-4-167047  
口座名: 光永くにやす後援会



平成29年7月 市政報告会にて

### プロフィール

- 生年月日: 1955年(昭和30年)1月12日 生まれ AB型
- 家族構成: 妻、長男(警察官)、二男(自衛官)
- 趣味: クラシック音楽、デジカメ、歴史探案
- 特技: ホルン演奏、柔道初段、銃剣道初段  
外国語 韓国語(中級)、英語(初級)、ドイツ語(片言)
- 愛読書: 石光真清「城下の人」海音寺潮五郎「加藤清正」
- 座右の銘: 「生き生きとベストを尽くす」

### 略歴

- 1955年(昭和30年)1月12日 熊本市生 AB型  
二人兄弟の長男。父親は自衛官として健軍駐屯地に勤務。
- 1961年(昭和36年)3月 湖東幼稚園卒(熊本市)
- 1967年(昭和42年)3月 健軍小学校卒(熊本市)
- 1970年(昭和45年)3月 湖東中学校卒(熊本市)
- 1974年(昭和49年)3月 済々黌高等学校卒(熊本市)
- 1978年(昭和53年)3月 防衛大学校(神奈川・横須賀)を卒業後、陸上自衛隊に入隊。その後、野戦特科隊員として全国各地で勤務。
- 2002年(平成14年)8月～04年(平成16年)8月 第4特科群長(北海道・上富良野)
- 2009年(平成21年)3月～10年(平成22年)12月 健軍駐屯地業務隊長(熊本・健軍)
- 2010年(平成22年)12月をもって自衛隊退官
- 2011年(平成23年)2月 城彩苑湧々座勤務
- 2015年(平成27年)4月～ 熊本市議会議員(自民党熊本市議団)



# 光永くにやす通信 vol.5

昨年4月の震災から1年5ヶ月が経過致しました。生活の再建や地域経済の活性化等まだ乗り越えるべき課題が数多く残されております。またその一方で台風、豪雨などの自然災害も途切れることなく、北朝鮮を中心とする国際情勢もまた予断を許さない状況です。

6月の定例議会においてはこうした情勢を踏まえて一般質問に立たせていただきました。今回の「通信」5号はその内容を中心にまとめております。ご一読いただき、更なるご指導ご鞭撻を賜れば有難く存じます。



平成29年(2017年)9月1日 第5号

## 平成29年 第2回定例議会一般質問(6月15日)より(抜粋・要約)

### 1 将来を見据えた中心市街地の整備を

今後の熊本市市街地活性化の核ともなる桜町の開発について、現在の準備状況と熊本駅周辺を含めた将来構想について質問しました。

**Q** (仮称)熊本城ホールの利用料金はどのようになっているのか。また現在までの予約状況について教えてください。

**A** (政策局長) 利用料金は第三回定例会(9月)に提案する条例の中で示す。予約状況については具体的に利用したいという問い合わせが10件以上。ツアーコンサートやイベントについては、これまで培った人的ネットワークを活用するほか、熊本市 MICE アンバサダーの協力を得て誘致活動に努める。

(光永) 一般的に大きなイベントの企画は3年前から。オープンまで2年をきっているのに、こうした状況では極めて厳しい。相当な危機感をもって誘致活動を進めて欲しい。予約を待つだけでなく、本市自らがイベントを企画して攻めの姿勢で臨むことも必要。例えば「お城サミット」でもいいし「防災サミット」でもいい。その中から毎年恒例の行事に結びつけてほしい。

**Q** 大きな回遊性という観点から、熊本駅と中心市街地とを有機的に接続するための構想、新たに生まれる本市の魅力について、市長の考えをお聞かせいただきたい。

**A** (大西市長) 本市は地震により甚大な被害を受けたが、中心市街地の各事業は、経済的な側面から都市圏全体の復興をけん引するため、「熊本市震災復興計画」に位置付け推進していく。熊本駅周辺地区においては、今後白川口駅前広場、駅ビルが完成し、隣接する新町・古町では、町屋を活かした景観整備を進めていくとともに、大天守の復旧や、桜町地区再開発事業、シンボルプロムナード等の整備を進め、新たな賑わいと潤いの核を創出していく。今後、魅力的で個性豊かな拠点を形成して、楽しく散策できる仕組みづくりに加え、公共交通の利便性を高めるための駅前広場のサブターミナル化や、ロケーションシステムの導入等によって、中心市街地の回遊性を向上させ、面的につなげていくことが重要と考えている。

### 2 時流をとらえた観光戦略で街を元気に

観光は熊本市の経済を支える大きな柱です。来年からスタートする大河ドラマ「西郷どん」への対応、観光ビッグデータの活用、修復過程における熊本城の料金設定等観光振興に必要な喫緊の課題について質問しました。

**Q** 来年に迫ったNHK大河ドラマの「西郷どん」について、どのように本市の観光に取り組んでいくのか、具体的に教えてください。

**A** (経済観光局長) ドラマの主たる舞台となる鹿児島市とも連携しながら、例えば、熊本城の強固な守りを加藤清正公の築城技術とも絡めて紹介する。あるいは民謡田原坂に唄われる美少年剣士の伝説など、より多くの方に興味をもっていただけるようなストーリーを発信し、これらをつなぐような観光ルートの構築に努める。

(光永) まずは薩摩軍や官軍に関わるポイントを押さえ、これを結んでいくこと。次に、それに関連するポイントとして薩軍に合流した熊本隊や石光真清の生家などを加えて作り上げれば良いと思う。分かりやすくまとめたパンフレットと現地の案内板は必須。写真撮影用のスポット表示なども必要。更に、いまの田原坂資料館には物販設備がないので、現地で歴史資料や土地の名産品など買い物ができるようにしてほしい。

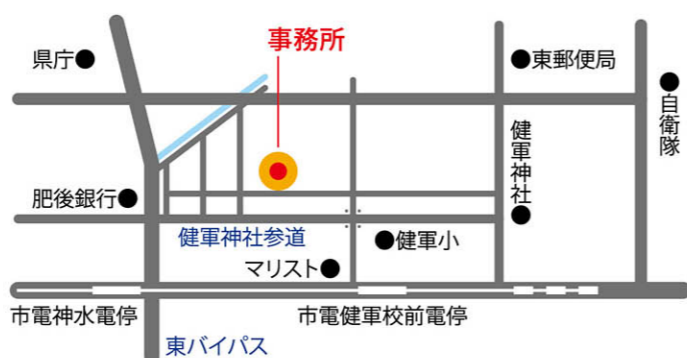
**Q** 熊本城復旧工事が20年という長期スパンで進められる中、熊本城開園の考え方や周辺施設を含めた利用料金については今後どのように運営されるのか。

**A** (経済観光局長) 来場者への安全対策を前提として、復旧事業の進捗にあわせて公開可能なエリアから順次公開したいと考えている。天守閣エリア、竹の丸エリア等は本年度策定する「熊本城復旧基本計画」の中で検討を進めている。今後、基本計画の中で段階的な公開エリアの範囲や安全対策等を明らかにしたうえで、城彩苑湧々座など周辺施設の利用料金はじめ、これまでの連携状況等も踏まえながら、出来る限り早い時期に設定できるように検討する。

(光永) 一昨年の台風で一部入場制限がかかった時に、急きょお城のみの特別料金が設定され、共通券は販売中止となった。実はこの共通券でやっと成り立っている施設もある。徐々に復旧していくお城の入場料の設定については周辺施設を含めて検討してほしい。20年経過して昔の入場料500円にもどる考え方はあまりにも悠長で耐えがたい。(裏面へ続く→)

再開発全体イメージ(熊本市HPより引用)

熊本市議会議員  
**光永くにやす事務所**  
〒862-0911 熊本市東区健軍1丁目19-26  
事務所電話: **080-5255-4071**  
Fax: 096-367-1801  
ホームページもあわせてご覧ください。  
<http://k-mitsunaga.net/>



### 3 弾道ミサイルに備える～私達にできること

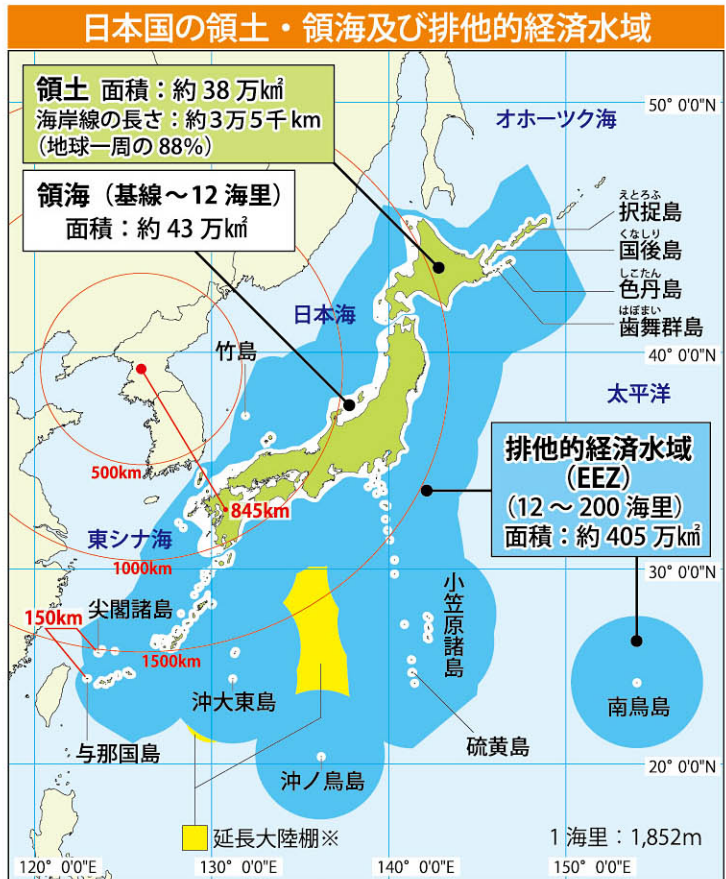
4月に行われた防災訓練の成果や小中学校における防災教育への取り組みを確認するとともに、弾道ミサイルを想定した訓練の必要性を訴え、「今年中に訓練を実施する」旨の回答を得ました。これは地元の新聞、テレビにも取り上げられ反響を呼びました。

**Q** 一連の行動が示す北朝鮮の真の狙いが何なのか見当もつかないが、地方都市にできることは「迅速な情報の伝達」と「避難要領を徹底すること」。ミサイル着弾にともなう「Jアラート」発令時の行動については、どのように周知徹底を図っているか。

**A** (政策局長) 本市ホームページにおいて、国が示した「弾道ミサイル落下時の行動等について」を紹介するとともにQ&Aを整備して、新たな情報に基づき随時更新を行っている。

**Q** Jアラート発令からミサイル落下まで、7分間しかない。本市においてこうした事態を想定した避難訓練を実施する計画はあるのか。あるとすれば、どのような要領で行うのか。

**A** (政策局長) 本市としては、今年の台風シーズンが過ぎる秋以降の実施に向けて、国・県等と訓練詳細について調整を図っている。今後、こうした訓練を通じて、より一層市民の理解を深めていく所存である。



日本の国土面積は約 38 万 km<sup>2</sup> で世界 61 位。しかし領海と排他的経済水域 (EEZ) は計 447 万 km<sup>2</sup> で、海の広さなら米国、オーストラリア、インドネシア、ニュージーランド、カナダに次いで世界 6 位。日本の近くには深い海が多く、EEZ 内の海水の体積で比べると世界 4 位という計算もある。(朝日新聞 GLOBE Web より引用)

### 4 いまこそ我が国の平和教育を考える

「子どもたちに伝えていくこと」というテーマで平和教育の在り方と郷土の歴史を学ぶことの大切さを訴えました。特に平和教育については 今回の質問の最も大きなテーマでしたので、以下ほぼ全文を掲載致します。

**Q** 今から 28 年前、私が北海道の第一線師団に勤務している時に東西冷戦が終結した。崩壊するベルリンの壁の様子を見ながら誰もが「これから世界は、平和な時代へと向かっていく」と信じたと思うが、現実にはそうならなかった。さきほどは Jアラートについての質疑をしたが、子どもたちにミサイルからの避難要領を論ずる時代が来ることを誰が予測しえたか。改めて「平和」の意義について考え、この平和を守っていくことの大切さを子どもたちに教える時ではないかと思う。

教育長にお尋ねする。現在の小中学校において平和教育はどのように行われているのか。どのような機会に、あるいはどのような施設・教材を用いているのかも含め教えていただきたい。

**A** (教育長) 小学校では、国語科で戦争や原爆に関する教材を用いて平和を大切に育む心の育成、社会科では小学校 6 年生で「戦争と人々の暮らし」「平和で豊かな暮らしを目指して」を教材に、平和を願い、求める心や国際平和の精神を学んでいる。

また中学校では、歴史科で「二度の世界大戦と日本」「現代の日本と世界」の教材を用いて、日本が戦争に向かった過程や民主化、国際社会への復帰などを学び、公民的分野では、「個人の尊重と日本国憲法」「地球社会と私たち」の教材を基に平和主義の意義や国際社会における貢献、協調・協力を学んでいる。

さらに特別活動として、学校行事や国民の祝日などをテーマに平和の重要性を学ぶとともに、修学旅行では全小学校が長崎を、一部の中学校では広島や沖縄を訪問し、体験学習や被爆体験談などを通じて平和の尊さを学んでいる。

今後も、一人ひとりの生命と人権尊重を基本にすべての教育活動を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さを理解させ、平和を希求する心や態度を育む教育の実践に努めて参りたいと考えている。

**Q** 国語、社会、歴史、公民等様々な教科において取り上げられ、更には学校の特別活動や修学旅行など、実に幅広い機会をとらえて教育されていることが分かる。教育の内容については、やはり我が国における平和教育は戦争、あるいは原爆といったものと対をなすものだということも理解できる。つまり戦争や原爆の悲惨さ、理不尽さといったものを教え、これらを強く否定することによって平和の尊さを分らせる。この世で最も大切なものは平和であると。我が国における平和教育においては、「平和である」ということが目標であり、ゴールであるように思う。

ところが世界にはこの「平和」についてもう一歩突き詰めた考え方があることも知っておく必要がある。

紹介したいのは、アメリカの独立運動において強いリーダーシップを発揮したパトリック・ヘンリーの言葉。「鎖につながれ奴隷のような状態であっても、人の命はそれほどまでに尊く、平和とはそれほどに甘美なものと言えるだろうか。私は断じてそうは思わない」。

つまり、「彼は自由が保障されない平和なんかまったく意味がない」と言っている。そしてこの言葉に強く賛同する人たちが独立戦争を戦い、今日のアメリカ合衆国を築き上げた。このことは戦争か平和かという単なる選択ではなく、どんな平和を求めるとか、平和の在り方そのものを強烈に問いつけている。

米国で長く研鑽を積まれた教育長にお伺いしたい。米国においてはどのような平和教育がなされているのか。あるいは平和に対する考え方について、何か印象があればご紹介いただきたい。



**A** (教育長) 日本の「平和教育」は、さきほど述べたように戦争の歴史や憲法の平和主義を中心として取り組まれているが、米国では日本のような全国共通の学習指導要領や教科書検定制度がないため、「平和教育」に対する考え方も様々である。

米国は「生存・自由・幸福追求の権利」を理念に、イギリスとの独立戦争に勝利し、建国した歴史がある。したがって、米国の理念としての平和とは、「生存・自由・幸福追求の権利」が順守できている状態をいい、これを阻害する要因があれば、排除してでも実現すべきもの、平和を実現するためには戦うこともいとわれないとの考えが根底にあると考えている。

特に私が留学していた 2001 年には、米国内で衝撃的な「9.11 同時多発テロ」が発生し、いま述べたような考え方が顕著に表れた時代であった、という印象をもっている。

(光永) ただいまの答弁で、日本とアメリカの違いがとてもよく理解できた。

日本の平和教育においては題材が決められているが、アメリカにおいてはもっと自由で多様性をもって教えられているのだ、ということを感じた。

私は、もちろん問題解決にあたって、武力や暴力を優先することがあってはならないと考えている。これは人間社会でも国際社会でも同様である。

問われているのは「平和の中身」であり「そこに至るプロセス」ではないかと思っている。調べてみると、アメリカが独立を果たした 18 世紀以降、これまでに 70 を越える独立戦争が歴史に刻まれている。そして、多くの国が独立を果たしている。

戦いを乗り越えて、初めて自分たちの平和な国を手に入れた人たちがいる、ということを忘れてはいけないと思う。当然、その平和な国を守りぬくための戦いも数多く存在するという事。

パトリック・ヘンリーの言葉のほかに、もうひとつ、

歴史の中でおきた出来事を紹介したい。

1918 年、第 1 次世界大戦が終了した。この大戦において、初めて機関銃、戦車、航空機が使用され、大量殺りくのために毒ガスが使用された。ヨーロッパを始めとする多くの人が犠牲となり、人々は戦争に疲れ果てて、「もう二度と戦争はしたくない。平和が一番だ」と誰もがそう思った。

ところが、多額の賠償金を背負ったドイツにヒトラーが登場し、急速に巻き返しを図りだす。そしてついに 1936 年 3 月 7 日、ヴェルサイユ条約で非武装地帯として定められたラインラント地方にドイツが無断で軍隊を進駐させるという事件が発生。まさにこれは重大な条約違反。

ところが、フランスもイギリスも、全く動けなかった。それは「もう二度と戦争はしたくない」という世論の中で、軍を動かすことができなかった。この時、「軍事力によってドイツをこの非武装地帯から排除すべき」と主張していたイギリスのチャーチルは「戦争屋」とレッテルを張られて、政治の第一線からしばらく姿を消すことになる。

一方、軍隊を進めたヒトラーは、眠れない二日間を過ごし、ラインラントにおける戦いに備えていたが、結果は何も起きなかった。彼は一か八かの賭けに勝った訳である。それから、ヒトラーはドイツ国民の絶大な支持を受け、これを足掛かりにドイツの拡大主義を貫き、あとはみなさんご存知のとおり、のシナリオで第 2 次世界大戦へと突き進んでいった。

こうした教訓を経て、第 2 次大戦後の世界では安全保障に対する考え方が大きく変化する。国際連盟は国際連合と形を変えて、その中に初めて国連軍が設けられ、やがて国連平和維持軍による平和維持活動が始められる。軍縮に代わって軍備管理という概念が誕生し、紛争に対しては早期に関与することによって不拡大主義がとられるようになる。これらの仕組みや考え方は、全て「平和」を作り上げるためのものであり、そこにはただ「平和を願うだけ」では、ドイツの暴走を止められなかった、世界大戦を止められなかったという強烈な反省の思いがこめられている。

私は「戦争を否定して、平和の大切さを教える」といういまの教科書の内容を否定するつもりは毛頭ない。

ただ、教科書「を」教えるのではなく、教科書「で」教える態度が正しいのではないかと。まさに先ほど、教育長の答弁にあった「多様性」である。

戦争、平和、そして自由、こうした言葉のもつ多様な側面にもっと目を向けて、そもそも「国家」とは何か、「国」という単位は必要なのか、なくてもいいのか、その土台の部分について自分自身で考える機会を与えてほしい。

